

A Note on Nominal Rigidities and Model Misspecification

松山大学 蓮井康平

短期の経済において名目硬直性は重要な要素の一つである。特に、名目賃金の硬直性は、Erceg et al. [2000]と Christiano et al. [2005]によって、金融政策による安定化のトレードオフの問題や、金融政策の波及チャネルにおいて、その重要性が指摘されている。本研究は、名目賃金の硬直性について、ニューケインジアン・モデルにロバスト制御問題を導入して分析を行う。分析の結果、次の2つの結果が得られた。第1に、価格の硬直性の増大はロバスト制御の影響を拡大させるが、名目賃金の硬直性の増大はロバスト制御の影響を小さくすることが判明した。この結果は、ロバスト政策の経済への影響は、名目硬直性の種類によって異なる可能性があることを示している。第2に、名目賃金の硬直性の増大は、経済構造を通じた効果のみに焦点を当てると、ロバスト制御の影響を拡大することが判明した。この結果は、価格の硬直性の変化のみを考慮する政策は、ロバスト制御の影響が拡大し、厚生損失を増大させる可能性があることから、経済厚生上望ましくない政策になる可能性があることを示している。